

市仏会報

発行所
 横浜市西区南軽井沢9
 勸行寺内
 横浜市仏教会
 電話(045)311-3557

ご挨拶

横浜市仏教会

会長 佐藤 功 岳



小生が横浜市仏教会の会長を務めさせていただいてから二年目となりました。

まずは、一昨年に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々にお悔やみ申しあげるとともに、現在も闘病中の皆様、心からお見舞い申し上げます。

また、危険を厭わず治療に当たっておられる医療従事者の皆様には衷心より敬意を表します。

この新型コロナウイルスは想像以上に猛威を振るいました。そして感染は瞬く間に世界を席卷し、人が集合し接触を伴う行為がことごとく制限されてしまいました。

本会も例に漏れず、計画いたしておりました仏跡参拝や奉讃部事業は中止を余儀なくされ、令和二年度の涅槃会も当会会員寺院檀信徒の参加をいただくこ

とが叶わなくなりしました。そのため、今年度から本会の運営はYouTubeや行事のネット配信などデジタル化を進めていきたく、事務局員各位も意気を高めております。

ご存じのように、本年度の総会が初めての書面総会となりました。

この書面総会開催にあたり、本会も電子化・デジタル化の面が弱かったため、事務局に過大な負担をかけてしまいました。せめて、会員各寺院のメールアドレスの登録があれば連絡も速やかに、かつ経費も軽減できるかと存じます。

また、横浜市議会へのアツピールもコロナのために止むべく中断しております。

さらに、会員ご寺院も行事や法要等に新型コロナウイルス感染症の影響を被っておられるかと存じます。

こうした事態の一日も早い収束を祈念するとともに、会員諸大徳の法体堅固お祈りいたします。



『奉讃部会だより』

奉讃部部长 善浪裕勝

令和二年(二〇二〇)は、新型コロナウイルス感染症拡大により、コロナに翻弄された一年でありました。また、感染拡大につれ、デマや誤った情報の人々の不安を生み、差別や偏見など社会に混乱を起こす事態となりました。

寺院行事の縮小や中止、延期に伴い、檀信徒の皆様とのつながりも危惧されています。市仏教会の事業も春の仏跡参拝(身延山)は、令和三年度へ順延。十一月三十日に予定しておりました『第二回秋のチャリティ公演』お釈迦さま成道会にちなみも中止となりました。

令和三年一月七日「緊急事態宣言」が発出され、二月十二日開催予定の市仏主催『第四十六回涅槃会』につきましても、市仏・港北区仏教会役員のみで港北区泉谷寺にて厳修し、法要と光明寺住職石田一裕師の講話は当会ホームページにて配信いたします。是非、檀信徒の皆様にお知らせいただければ幸いです。

このような状況下、市仏の機能を結集し、私たち僧侶が果たすべき社会的な役割、意義を自らに問い直し精進してまいります。

ここに改めて、会員諸大徳各位におかれましては、当会活動にご理解、ご支援を切にお願い申し上げます。

執行役員名簿

会長	佐藤 功 岳
副会長・兼時局対策委員長	三浦 公正
副会長・兼奉讃部部长	善浪 裕勝
常務理事	本多 康興
常務理事	程木 昭徳
常務理事	安達 信宏
常務理事	大橋 俊史
常務理事	市川 重章
事務局長	中村 秀重
計務部長	守村 憲和
計務部長	西長 文和
庶務部長	志野 達也
庶務部長	尾崎 尚雄
庶務部長	西村 立貴
庶務部長	豊田 良貴
庶務部長	西村 真彰
庶務部長	四宮 健伸
庶務部長	小澤 昌弘

区仏会長名簿

鶴見区	寿徳寺	廣瀬良弘
神奈川区	本覺寺	守長尚文
西区	願成寺	楠 雅翔
中区	蓮光寺	本多康興
南区・港南区	萬福寺	柳川永壽
保土ヶ谷旭区	福生寺	美松寛昭
磯子区	金臺寺	奥田昭應
金沢区	禅林寺	菊地茂雄
港北区	泉谷寺	久米真浩
都筑区	福聚院	齊藤清紀
緑・青葉区	大林寺	鈴木昭彦
戸塚区	高松寺	西尾宗哲
瀬谷区	西福寺	備前恭忍
泉谷区	観音寺	梅田保彦
栄区	光明寺	北條祐英

第四十五回涅槃会開催

第四十五回当会主催の涅槃会が令和二年二月四日、中区仏教会担当で、西有寺様を会場として開催された。

当日は中区仏教会寺院諸師を中心に、午後一時半より市仏連副会長の会式の辞により涅槃会法要が始まる。



第一部 法要の部

式衆が上殿。導師を勤めた市仏佐藤功岳会長から啓白文が奉読され、読経の音が厳かに本堂内に響いた。

指名焼香では、県仏教会和田大雅会長、当会名誉顧問・大本山總持寺貫首代行関知客老師、

都築顧問諸老師が仏前に進まれた。



- ・導師、式衆入堂
- ・一同三礼
- ・三歸依文唱和
- ・啓白文奉読
- ・読経（観音経・舍利礼文）
- ・回向
- ・一同三礼
- ・導師、式衆退堂

第二部 講演の部

- ・市仏会長挨拶
- ・県仏教会会長挨拶
- ・中区仏教会会長挨拶
- ・講師紹介

講演『白象をたずねて〜ブツダ最後の旅〜』

講師 副会長・善浪裕勝師 積尊涅槃会にちなみ、お釈迦様のご生涯、足跡を辿る楽しく親しみやすい法話講演を頂いた。準備の中心を担った中区仏教会の皆さま、準備から式の運営の細部にわたり本堂にお疲れ様でした。



第四十七回 令和二年総会開催

第四十七回総会は新型コロナウイルス感染症の影響で会合による審議を取りやめ、書面総会にて開催された。

六月一日〜十までの間、可否申告・質疑応答の受付期間とし、六月十六日に議長担当区都筑区仏教会より齊藤清紀師が議長、及び副議長担当区緑・青葉仏教会より鈴木昭彦師が副議長となり採決確認がなされた。

審議事項は次の通り。

- ・令和元年度事業報告
- ・令和元年度決算報告
- ・監事監査報告
- ・令和二年度事業計画
- ・令和二年度予算案
- ・その他

(会名称・広報活動の拡充)

採決確認

- ・賛成数 〓 四二〇
- ・賛成 〓 四一九
- ・賛成 〓 三三〇 + 委任 〓 一八九
- ・反対 〓 〇

その他 〓 一 (?と記入あり)

以上の結果により議決され、会員にはホームページにて総会報告とした。



時局対策委員会 令和元年(2019年)度決算報告書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

2020年5月7日

- 1、収入 ¥1,166,425
- 2、支出 ¥45,643
- 3、差引残高 ¥1,120,782 (次年度時局対策委員会費へ繰越)

科目	収入	備考	科目	支出	備考
時局対策委員会費	100,000		事務用品	5,531	封筒、他
繰越金	1,066,425		通信費	35,112	委員集郵送費(48部)
			会場費	5,000	会議
合計	1,166,425		合計	45,643	

奉読部 令和元年(2019年)度決算報告書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

2020年5月7日

- 1、収入 ¥649,000
- 2、支出 ¥572,816
- 3、差引残高 ¥76,184 (次年度奉読部活動費へ繰越)

科目	収入	備考	科目	支出	備考
仏跡参拝費	90,000		灯明料	30,000	新勝寺
祝金	23,000		心付け	6,000	フライバー、ガイド
奉読部事業費	200,000		会場費	105,000	にぎわい座
チケット代	248,000	1名×1,000	出演者礼金	160,000	演者2名
祝金	88,000		事務通信費	90,816	印刷・発送代
			会合費	32,000	特別心算簿部会費(備録分)
			寄付金	149,000	SVA寄付
合計	649,000		合計	572,816	

その他

- ① 会の名称について → 横浜市仏教会といたします。
 横浜市仏教連合会 → 横浜市仏教会といたしません。
 理由) 名称を簡略化することともに、ユニオン系の連合組織と誤解されたいようにしたため。
 それに伴い会則の第一条を以下のように変更いたします。

現行 : 第一条 本会は「横浜市仏教連合会」という。但し、通称として「横浜市仏教会」を使用することができる。
 ↓
 改訂案 : 第一条 本会は「横浜市仏教会」という。但し、旧名称「横浜市仏教連合会」を使用することができる。

- ② ソーシャルメディアを活用した広報活動の拡充
 今年度は調査期間とし、調査費が生じた場合は予備費より拠出いたします。

【横浜市仏教連合会担当区一覧】

西暦	担当区	備考
2021年	港北区仏教会	第46回
2022年	金沢区仏教会	第47回
2023年	南・港南区仏教会	第48回
2024年	戸塚区仏教会	第49回
2025年	鶴見区仏教会	第50回
2026年	西区仏教会	第51回
2027年	磯子区仏教会	第52回
2028年	神奈川区仏教会	第53回
2029年	緑・青葉区仏教会	第54回
2030年	保土ヶ谷・旭区仏教会	第55回
2031年	瀬谷区仏教会	第56回
2032年	泉区仏教会	第57回
2033年	栄区仏教会	第58回
2034年	都筑区仏教会	第59回
2035年	中区仏教会	第60回

〈県慰霊堂奉仕〉但し年により仏式と神式との割合が異なり、概ね3回または4回担当。新年明けに次年度の計画が県遺族会より提示される。

西暦	担当区
2020年10月	西区仏教会
2020年11月	磯子区仏教会
2021年	港北区仏教会
2021年	金沢区仏教会
2021年	中区仏教会
2021年	保土ヶ谷・旭区仏教会
2022年	鶴見区仏教会
2022年	戸塚区仏教会
2022年	栄区仏教会
2022年	泉区仏教会
2023年	瀬谷区仏教会
2023年	都筑区仏教会
2023年	緑・青葉区仏教会
2023年	南・港南区仏教会
2024年	神奈川区仏教会
2024年	西区仏教会

〈総会議長・副議長〉

西暦	議長	副議長	備考
2020年	都筑区	緑・青葉区	第47回
2021年	戸塚区	瀬谷区	第48回
2022年	泉区	栄区	第49回
2023年	鶴見区	神奈川区	第50回
2024年	西区	中区	第51回
2025年	南・港南区	保土ヶ谷・旭区	第52回
2026年	磯子区	金沢区	第53回
2027年	港北区	都筑区	第54回
2028年	緑・青葉区	戸塚区	第55回
2029年	瀬谷区	泉区	第56回
2030年	栄区	鶴見区	第57回
2031年	神奈川区	西区	第58回

〈役員選考委員会〉

但し選考委員（区仏会長）と現役会長・副会長・監事の重複を避けるため互選順が変わることがあります。

西暦	委員
2019～2020年	磯子区、栄区、戸塚区、瀬谷区、金沢区
2021～2022年	中区、南・港南区、西区、港北区、鶴見区
2023～2024年	都筑区、神奈川区、緑・青葉区、保土ヶ谷・旭区、泉区
2025～2026年	磯子区、栄区、戸塚区、瀬谷区、金沢区

時局対策委員会 だより

崖つぶちに立つ既成仏教教団

時局対策委員長 三浦公正

佐藤功岳師（現横浜市仏教会長）の後を継ぎ、時局対策委員長を務めさせて頂いております。時宗浄光寺住職 三浦公正と申します。

時局対策委員会というのはその名前が示すように、横浜市仏教会における諸々の問題点を検討し、横浜市仏教会に提言し、仏教会の発展を目指してゆくの

がその役目と思っております。ただ地域によりあるいはお寺の歴史により問題点も多種多様であると考えられます。横浜市というほんの狭い範囲でも、江戸時代から開けた場所、江戸末期から明治にかけて開けた場所、戦後開けた場所、農村部、山間部、沿岸部等様々です。

このような事情の異なる多種多様な環境の中で、お寺から離れてしまった人々の気持ちを如何にお寺に引き戻すかが喫緊の課題であろうと思えます。

先般清水誠葬具店の葬祭ホールの際に、小さなビルに入ったお寺のような物があることに気がつきました。

葬儀社の方に何かと問えば、「地方のお寺の出張所らしいですよ。二十万円で戒名を付け葬儀から初七日までやってくれる

ようです。」とのこと。このお布施の額は普通のお寺の半分以下、結構頼む人もいることでしょう。

しかし一時は良いでしょうが、単なるダンピング競争では、将来は悲観的です。

そればかりではありません。最近では霊園もお寺の替わりをしようとする躍起になっております。

将来の人口減の中、霊園でも無縁墓地が増え収入が減ることを見越して、霊園内の部屋を使い僧侶を呼んで法事を執り行うことを勧めています。お布施からリベートを取り、収益とすることを考えているのです。

このようなお寺や霊園には見向きもせず、菩提寺を求めような人を作らなければなりません。同じ事をやっているのであれば、現在お布施は料金とおもわれていきますから、安いに越したことはないのです。

三十年程前までは菩提寺を持つことは当たり前でした。それが壊されてきたのです。壊したのが他の宗教では無く、葬祭業者や霊園業者だということですから情けない。

既成仏教教団の各ご寺院は、その維持発展のための原資をお檀家の皆さんから納めて頂いたお布施に頼ってきました。そのお布施も大半が葬儀と法事による物です。何故こうなってしまったのでしょうか。遠因は明治の初めに明治新政府が行った神仏分離にありそうです。

江戸時代までは神仏習合という思想の下、仏教と神道は一体化していました。そして仏教が圧倒的力を持っていたのです。

それが明治初めの神仏分離令で神道と仏教が分けられたのですが、結果として仏教の大弾圧になってしまいました。

「仏教を弾圧しろ」とは発令されなかったのですが、神道の国教化を敏感に感じ取った役人や神官が忖度し、民衆を扇動して仏教的な物を壊してしまつたのです。丁度中国の文化大革命と同じような事をやりました。

これにより神仏は二つに分けられたのですが、昨日まで一緒だった物を急に二つに分けるといわれども無理な話。庶民は仏教と神道という二つの宗教を使い分けたのです。これが日本人の宗教観に深い傷を残しました。軸足を置く宗教が不明確になつてしまつたのです。

その後第二次世界大戦で負けるまで神道が日本の国教になりました。仏教の上に常に神道が乗っかっていたのでした。

本来は宗教的な全ての物が国教である神道に持つて行かれるはずでしたが、神道は穢れを極端に嫌います。この穢れに繋がった部分、即ち葬儀や法事だけが仏教に残されたのです。

第二次世界大戦に負け、神道が国教でなくなつたときに、仏教を元の姿に戻せば良かったのですが、それが出来ませんでした。相変わらず葬儀と法事

の中で生きてきたのです。これが仏教が葬式仏教と言われるようになった所以です。

この過程の中で我々は仏教の持つていた大事なことを忘れてしまいました。否、我々僧侶だけではなく、檀信徒の皆さんも忘れてしまったのです。

先般、お父上を五年程前に亡くされ、この度お母上を亡くされた息子さんが娘さんが埋葬の相談に見えられました。概ねの相談が終わつた後の話です。

息子「お寺は何時お詣りに来ても良いですか。」
住職「何時でも良いですよ。私が居るかどうかは解りませんが、何時でもどうぞ。」

娘「えー！ お寺はお詣りに来る所なんですか。」
この娘さんの反応の中に、現在の仏教の置かれていた状態が集約されていると思うのです。娘さんはお寺という所は、葬儀と法事を執り行うためだけにありと思つておられたようです。

実際これは檀信徒だけの問題ではなく、僧侶の側も、それで良いのだと肯んじているような所もあります。

私の知る限り殆どの寺院は葬儀と法事しかやって来ませんでした。宗教としてやるべき事は沢山あるとは思いますが、仏教が葬儀と法事に特化して久しくなりました。

このような僧侶に対する評価には厳しい物があります。週刊新潮に載つた吉原勇氏の

寄稿に由れば、作家深沢七郎氏の葬儀では葬儀に僧侶は呼ばれず、予め深沢氏が般若心経を吹き込んだテープが流されていたそうです。深沢氏の口癖は「僧侶ほど役立たずで、やらざるばかりの職業はない」であつたとあります。

あるいは葬儀社から葬儀の依頼を受けると、お布施の六割をリベートとして取られると聞きます。これが多いか少ないかは解りませんが、最近ブームの占い師さんがブースを借りると、見料の六割をブースの所有者に取られ、自身の取り分は四割だそうなんです。どちらも四割、何となく似てませんか。

これが一般人の僧侶に対する認識かも知れません。神道は戦後一時どん底の時代がありました。その中で色々模索し、今は仏教より元気が良いくらいです。

我々僧侶も何時までも葬儀・法事にしがみ付いているのではなく、新しい道を模索しなければなりません。

『お詣り』には今を生きる人の色々な思いがあります。これを我々も思い出し、人々にも思い出させなければ、仏教に明日は無いのです。



特集

コロナ禍における寺院活動
市仏役員
アンケートより

コロナ禍における寺院活動について役員を対象としてアンケートを実施いたしました。多数の回答ありがとうございます。

結果概要は記事末のグラフをご覧ください。

年回法事特に参詣者数の減少が著しく、やはり昨今の接触をできるだけ避ける傾向が顕著に出ています。

また、特別法要に關してもソーシャルディスタンス確保による参詣者制限がとられたり、柵もできるだけ接触を避ける傾向がございました。

その他各々の寺院で予定されていた諸行事は半数以上が中止を余儀なくされた事が分かりました。

コロナ禍が収束し元に戻る事が出来ればいいのですが習慣が変わることでの寺院離れが少なからずあるかもしれません。

まずは一日でも早く収束することを祈念しまして、以下に各寺院様でのコロナ禍対策の取り組みについて順不同にてご紹介させていただきます。

法事の際、待合室の椅子の数を減らして間隔を空ける。アルコール消毒液の設置、加湿器の設置、換気のため窓開け、換気のために業務用扇風機の設置、テーブルにアクリルパネルの設置、などの設備投資を行いました。法要中の対策は、参列者及び僧侶もマスク着用、以前は参列者に経本を配布して一緒に読経をしていましたが、経本の配布もやめて読経は僧侶のみとしました。またご焼香の前と後のアルコール消毒を推奨していません。法要の椅子席は距離を離して設置しています。

また冬でも窓を開けて換気しながら法要をしています。

鶴見区 曹洞宗 寿徳寺

消毒液の設置、換気をこまめにする、法要会食は席を十分に広げる。新盆施食会は一家族二名様に限定した。

神奈川区 曹洞宗 本覺寺

マスクをする・消毒液設置

西区 曹洞宗 萬徳寺

毎年お会式には清興として法要前に演奏会、講談等を開催しているが今年は昨年に続き大正琴のコンサートを行った。受付には、飛沫防止の衝立を設置し、参詣者には検温、手指の消毒、マスクの着用、連絡先の記名を行い座席は社会的距離を考慮し間隔を空けて開催した。

西区 法華宗 勤行寺

行事は通常通りに開催したが、参加者は減少しました。また、年忌法要は手指消毒をして頂き控え室と本堂は間隔を設定して着席頂き、マスクを着用してもらっています。当山では経本を用いておりますので、使い捨て手袋をつけて頂き、本堂や控え室は換気が十分になるようにしています。また、本堂では一人づつに経本を置く机を設営していますので年忌法要ごとに消毒しているため、従来は30分ごとのお勤めでしたが消毒をするため一時間に一件とタイムテーブルを変更しました。

中区 日蓮宗 大圓寺

寺の御本堂にて勤めた檀家の法事数について昨年と今年とを比較してみると今年は約二三パーセント減少しています。参列者も減少してきて殆どの檀家が家族のみであったり家族の中の特定の人達だけでお参りしていました。毎年七月初旬にはその年に新盆を迎える檀家を集めて本堂で合同の新盆法要を行っています。今年は一室に集まるわけにはいかず個別に申し込みを受け付けて法要する対応策をとりましたが実際に個別に新盆法要をした檀家数は全体の割ほどでした。

また、「新盆」という言葉すら知らない人たちが大勢いてびっくりしています。

葬儀については出来るだけ通夜葬儀を行うように檀家個別に説得をしていますが、「コロナ」を理由にして通夜無しの日葬や火葬炉前での短いお経のみで済ませる人達も増加しています。核家族化の影響もあり親子間の仏事の伝承が途絶えがちでありコロナが過ぎ去ってもこの傾向は続くと考えています。

中区 真宗大谷派 蓮光寺

高野山真言宗より本山注意事項として送られた項目を拡大し各置き、アルコール消毒を5個所程置き注意を促しました。マスクも常時着けて頂くなどしています。

南区 高野山真言宗 萬福寺

法事で人の距離、マスク、人数等は特に注意はしなかったが、お檀家の方で調節した。お施餓鬼は手伝いの人は全て断り、お塔婆も開始二時間程前より外に出し、適宜持つて行って貰った。

開始時に五十人程は本堂に入った。花祭りは、甘茶の柄杓用に各人に手袋を用意。参道に二m間隔でテープを貼った。柵は通常通り実施したが、地域によつては半分程の家から断られた。第1土曜の集会和御詠歌はコロナ蔓延の状況により、実施したり休んだりしている。

南区 時宗 浄光寺

個別の柵を中止した代わりに七月十四日、八月十四日の十

一時より本堂にて住職・副住職にて盆供養法要を厳修。両日も担当者をつけ本堂前に十時〜十六時までお焼香所を設け参拝を可能に致しました。お施餓鬼法要は参列者なしにて住職・副住職にて厳修し、時間内は本堂前にお焼香所に参拝を可能にし塔婆は9月末までに個別で取りにきてもらいました。

保土ヶ谷区 高野山真言宗 大仙寺

検温・消毒の上入堂してもらいました。マスクを着用してもらいました。

保土ヶ谷区 高野山真言宗 福生寺

写経会並びに月例護摩修行は「会」としては中止とし、ご希望の方にはお出かけいただいた。はじめは一人、十一人、三十一人、三十四人と次第に増えている状況。護摩はもともと少人数。

保土ヶ谷区 高野山真言宗 香象院

基本的に感染拡大防止が命題なので、法要参列者は少人数にお願いする葬儀に関しては、基本的に葬儀引き続き初七日法要にして接触時間を減らす法要で来山の方には極力扉に触れないで頂く為、(換気と称して)開けておく様にした。

旭区 曹洞宗 長昌寺

理解を求める内容を配布（読経中の導師マスク着用、炎天、厳寒も窓開放、参列者の検温・マスク着用、手指のアルコール消毒、座席間隔の広げ）十三回忌以降は法事開筵を一年延期を提案。大法要は受付は屋外に変更。ソーシャルD確保に人員配置。参列者は室内ほか、屋外席、仏間席を設置。啓蒙：医療従事者への声かけ・寄り添う心を育む

磯子区 浄土宗 金臺寺

通常の法要では三密を避けて対応した。（換気・席間隔・マスク着用）おせがきは新盆のみ本堂内で参列。二回に分けて一回の人数を調整した。境内での参拝は自由にしていただいた。（ぼたんまつり等）自動の検温・アルコール消毒機器を設置した。

金沢区 真言宗 龍華寺

彼岸会中の法要は午前・午後の2部制とし、定員申し込み制として実施。坐禅会はオンライン坐禅会として継続中。

写経会は定員・予約制とし、午前午後の二回に分けて実施。禅と写経は個人での参加対応実施中。

金沢区 臨濟宗 東光禅寺

浄土宗として大きな年中行事として、施餓鬼法会、十夜法会が例年執り行うが、コロナ禍に

あつていずれもいわゆる「三密」を避けるために、施餓鬼法会は新盆の家族2名まで、十夜法会は総代のみの参列とした。また、法事・法要とも玄関に消毒液を置き、手指消毒をお願いした。本堂には空気清浄機とイオン発生装置を設置した。

港北区 浄土宗 泉谷寺

本堂内ソーシャルディスタンス、マスク着用、アルコール消毒の実施。

都筑区 高野山真言宗 福聚院

来山する方へマスク着用、アルコール消毒のお願いのポスターを入り口に貼り玄関・トイレにはアルコール消毒を設置。また、法要の際は席の間隔を空けた、食事の際は席の間隔を空けた、食事はお弁当にしていた。会食は控えました。

緑区 曹洞宗 大林寺

法事の際に参列者を少なくして、椅子席の座り間合いをつめないで少し空けてもらった。

瀬谷区 真言宗豊山派 西福寺

通常の法事では、参拝者が多くと不安なので、必ず人数を聞いて（今までも準備の都合で確認は行っていました）20名は超えないように配慮しました。施食会は、役人のみの参列でしたが、塔婆供養は行い、法要終了に合わせて頂ける様アウンスしました。年始の受付も、家族での御挨拶

は御遠慮頂きましたが、家族で本尊様へのお参りは案内しました。

瀬谷区 曹洞宗 徳善寺

当寺では玄関に、消毒をお願いするポスターを掲示し、手のアルコール消毒にご協力頂いております。使用して頂くお部屋も換気に気をつけながら他のご家族とご一緒にならないよう工夫しております。

泉区 曹洞宗 観音寺

通常法事はソーシャルディスタンスをとる、マスク着用、参列者の経典唱和もマスクのまま鼻音で。写経会は開式作法無し、各自バラバラに焼香・念仏し、マスク着けソーシャルディスタンスを考慮した。朝粥止めて有る物で粥の代わりに持たせた。袈裟の会は密を止めて活動を中止した。

栄区 高野山真言宗 般若院

緊急事態宣言が発出されてから「貞昌院における新型コロナウイルスCOVID-19流行に際しての法事、通夜・葬儀執行等の基本指針（貞昌院檀家さん向け）」を作成し、檀信徒の皆様にご徹底いただきました。

また、定例坐禅会においては、手洗いの徹底と、閉鎖空間の環境をなくすため換気、空気清浄機等の設置などを行い、坐禅会に参加される方には手洗いの徹底、アルコール消毒薬の利用、

発熱・咳などの症状のある場合は参加厳禁など、感染拡大の防止に向けた対策を取りながら年五〇回の坐禅会を継続してまいります。法事や坐禅会は感染症予防対策を皆で確認徹底、そして実践をする良い機会であると考えられています。

港南区 曹洞宗 貞昌院

コロナ禍における行事の事例

お会式大正琴コンサート

令和二年十月十日午後四時より横浜勤行寺では、お会式法要に合わせて昨年同様に大正琴&ピアノ演奏が本堂で催された。参詣者は、新型コロナウイルス感染予防の為検温、手指の消毒、マスクの着用、氏名住所連絡先の記入をして本堂に入堂した。



大正琴は、琴伝流大正琴師範小田桐大登師、ピアノは藤田桃子さんにより演奏された。演

奏曲は、民謡、懐メロ、東村山音頭（志村けんさんを偲んで）、横浜に因む曲、魂まつりのうた等多岐にわたり演奏され大正琴の優しい音や迫力のある音とピアノの音が調和した音色に参詣者は耳を傾けていた。昨年は演奏と一緒に歌をうたうことができたが今年はコロナウイルス感染予防のため一緒に歌うことが出来ず残念であった。演奏終了後、お会式が厳かに勤められた。

コロナ禍の諸行事

浄土宗 西林寺

常務理事 大橋俊史

自坊は境内に市名木指定のしだれ桜があり、県内外から花見客が大勢来る。ソメイヨシノの開花宣言の時期が見頃だが、仏教化の礎になるように桜が咲くと同時に花御堂に誕生仏を祀り、四月八日まで甘茶を振る舞う。だが今年では中止した。しかし境内にはいつもより若干少ないが花見客は大勢来た。施餓鬼も毎年法要前に役員奥方および知己・家族等が団結して昔ながらにお齋を作り、檀家に振る舞うが今年では戦後初めて中止した。随喜は有縁寺院の4カ寺と住職及び高一の息子俊慶で厳修。

寺役員会の決定通り、檀家への塔婆供養の申込案内は例年通り行い、参列は寺役員と新盆の家族のみとした。

コロナ禍アンケート集計結果

～コロナ禍における寺院活動について(令和2年を振りかえり)、 平年と比べての変化について～

塔婆の受付本数は例年とほぼ同数。新盆以外で自らお墓に塔婆を立てたい方は法要終了後夕方まで塔婆を取りに来ていた。塔婆に立てに行つた。

盆参りは中止しようと思つたが6月時点で檀信徒から来日時の催促の電話があつたため例年通りに予定日時を手紙で連絡。断りは数件。逆に驚いた。

檀信徒からは一年に一度は家で先祖様の回向をしてもらいたいと言われた。しかもコロナのためか例年より家族が多く集まり、いつもより会話が増え、1日の終了時間が遅くなるといううれしい悩みもあつた。

図1・通常法要(葬儀・法事)について

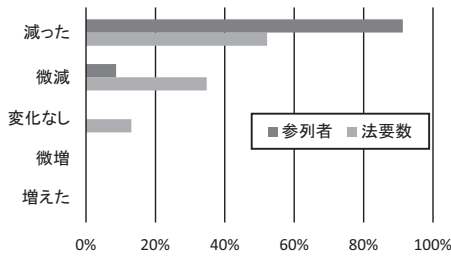


図2. 特別法要について

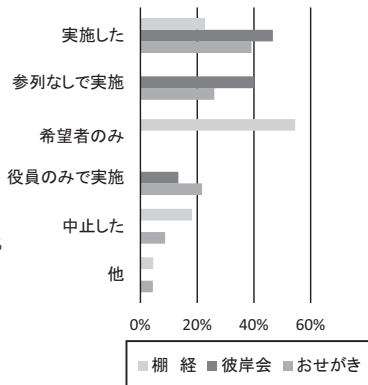


図3. その他行事について

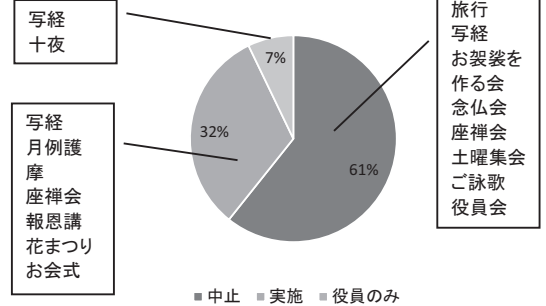


表1-1. 通常法要について(寺院数)

	増えた	微増	変化なし	微減	減った	合計
法要数	0	0	3	8	12	23
参列者	0	0	0	2	21	23

表1-2. 通常法要について(割合)

	増えた	微増	変化なし	微減	減った
法要数	0%	0%	13%	35%	52%
参列者	0%	0%	0%	9%	91%

表2-1. 特別法要について(寺院数)

	他(役員+α)	中止した	役員のみで実施	希望者のみ	参列なしで実施	実施した	合計
おせがき	1	2	5	0	6	9	23
彼岸会	0	0	2	0	6	7	15
棚経	1	4	0	12	0	5	22

表2-2. 特別法要について(割合)

	他	中止した	役員のみで実施	希望者のみ	参列なしで実施	実施した
おせがき	4%	9%	22%	0%	26%	39%
彼岸会	0%	0%	13%	0%	40%	47%
棚経	5%	18%	0%	55%	0%	23%

表3-1. その他行事について(寺院数)

	実施	中止	役員のみ	合計
旅行		6		6
写経	3	2	1	6
月例護摩	1			1
お袈裟を作る会		1		1
念仏会		1		1
座禅会	1	1		2
十夜			1	1
報恩講	1			1
花まつり	1			1
土曜集會		1		1
ご詠歌		2		2
役員会		1		1
お会式	1			1
全て		2		2
本山参詣	1			1
計	9	17	2	28

表3-2. その他行事について(割合)

中止	実施	役員のみ
61%	32%	7%
旅行 写経 お袈裟を作る会 念仏会 座禅会 土曜集會 ご詠歌 役員会 全て	写経 月例護摩 座禅会 報恩講 花まつり お会式 本山参拝	写経 十夜



●南・港南区仏教会

会長 柳川 永壽

令和二年度の活動状況につきまして、昨年の活動報告とは異なり本年は新型コロナウイルスの影響により世界中が混乱の嵐の中で一年が過ぎ大晦日は、東京では「一三三八名」の感染者が出ました。現状、早急なワクチンの確保などの情報が世界を駆け巡り不安の中で東京オリンピックに向け、新型コロナウイルスに勝利した日本オリンピック開催を促しておりますが、ここの急激な増加傾向と世界中に感染者が出はじめ感染力の強い変異種に対して心配する方々の中で疑問符となつていきます。扱て、本年度の活動状況ですが以上の如く一波、二波、三波の中でGOTOトラベル、GOTOイートなど政府の経済的落ち込みを底上げする為の政策が動き始め、全国の観光地、市中商店街各方面など報道機関によって見るたびに「すごい人出だ」と驚くばかりです。南区港南区仏教会の活動ですがコロナの影響にて活動中止が長く会員に区仏のポスターの配布並び

にあたり手指除菌・換気の上、マスク、フェイスシールド、アクリル板を使用し出仕者全員が本堂正面を向き対面とならないようにするなど感染対策をいたしました。例年秋に開催しております「寺務研究会」(会員寺院向けの研修)、「古寺参拝」(近隣の古刹をめぐる研修)は中止となりました。一月と七月に発行しております機関紙の「慈光」は行事が行えない中、会の現状報告や区内寺院所蔵の仏像が展示される博物館特別展示会の案内を入れるなど紙面を工夫して発行。会議は一月の総会は資料を郵送しての紙面開催、五月に事務局四名のみにて四役会、十一月交通安全法要に合わせて理事会(十一名)を行いました。先の見えない自粛生活が続きますが、誰か何かを悪者にするのではなく、それぞれの場を守るお互いを尊重する力で被害を最小限にして乗り切れればと、強制することなく思いを共有できればと感じます。台湾では出来たと云います。日本でも出来るはずと思われれます。

●金沢区仏教会

会長 菊地 茂雄

令和二年の活動内容をご報告いたします。釈尊降誕に合わせた「花まつり大会」は会員寺院が各自坊にて法要を務めるのみにて、お稚児さんの募集並びに行列、来賓の参加は中止と致しました。八月もしくは九月頃に区公会堂などを使用して開催しております「仏教文化公演(会)も中止。「交通安全物故者追悼法要並びに交通安全大般若転読法要」はお札を祈禱配布しているため十一月二十五日に有志の会員十一名のみ区内寺院に集まり来賓・檀信徒へは中止の案内を出し修行いたしました。開催

●保土ヶ谷・旭区

会長 美松 寛昭

保土ヶ谷・旭区仏教会は、令和二年四月新役員にてスタート致しました。しかし、コロナ禍により、予定されていた行事、降誕会、仏跡参拝バス旅行、成道会全て中止とせざるを得なく

- なりました。そのような中、春、秋と役員会を開催し、奉賛会規則改正に取り組んでおります。奉賛会員が減少する中、仏教会加盟寺院全ての檀信徒を奉賛会員とする方向で調整を進めております。最後に本年度新役員をご紹介させていただきます。
- ◇会 長 福生寺 美松寛昭
- ◇副会長 三佛寺 吉川瑞教
- ◇副会長 東光寺 志村齡彦
- ◇庶務 浄性院 高島隆文
- ◇会 計 圓福寺 木下英範
- ◇会計監査 正観寺 善浪裕勝
- ◇会計監査 遍照寺 柴 義彰
- ◇宗派幹事 眞言宗 金剛寺 細川泰秀
- ◇宗派幹事 浄土宗 三佛寺 吉川瑞教
- ◇宗派幹事 臨濟宗 福聚寺 森山一城
- ◇宗派幹事 曹洞宗 正福院 山本貴央
- ◇宗派幹事 日蓮宗 樹源寺 日比宣俊
- ◇宗派幹事 浄土真宗 正円寺 楠 正憲
- ◇奉賛会長 福生寺総代 鳥海恭一
- ◇奉賛会副会長 三佛寺総代 内田俊彦
- ◇奉賛会庶務 長昌寺 玄野善識
- ◇奉賛会計 香象院 四之宮正裕
- ◇奉賛会計監査 正福院 山本貴央
- ◇奉賛会計監査 正福院総代 小久江瀬平

●瀬谷区仏教会

会長 備前 恭忍

春の通常区仏会合と、秋の深まったころの再会合も、新型コロナウイルス感染者増大の現状を踏まえ中止といたしました。また来年の新年会も中止としております。各種費用は現備蓄金より出金するつもりとの文章を会員宛に連絡し了解を得ました。まだコロナ終息という光は見えず、予断の許さない現状で「苦勞多きことと存じますが「感染しない・感染させない」を辛抱強く継続し、この苦難を共に乗り越えていきましょう。

●港北区仏教会

会長 久米 真浩

令和二年四月、役員改選をもって港北区仏教会の新年度がスタートしましたが、時を同じくして緊急事態宣言が发出され、四月四日(土)に予定していた「花まつり」の中止に始まり、六月の移動研修会、十月の港北区仏教会担当の神奈川県戦没者慰霊法要と、諸行事が延期もしくは中止となり、最終的には、港北区仏教会担当の横浜市仏教連合会涅槃会を除き全ての行事が中止となりました。こうしてこの原稿を書きながら、例年であれば年度末の活動報告とともに多くの言葉で埋め尽くされるであろう事も含め、つくづくコロナ渦にあつて

の諸対応に苦慮いたします。皆様の寺院におかれましても、除夜の鐘や初詣、修正会などの諸行事においても少なからず制約をかけての厳修となったのではないのでしょうか。

明けて令和三年を迎え、新型コロナウイルス感染症が一層拡大する中で、一月八日(金)には東京・神奈川・千葉・埼玉の都三県に緊急事態宣言が再発出され、神奈川県知事からは徹底した外出自粛や飲食業の時短営業が要請されました。

今までもそうでしたが、企業や学校教育をはじめ、様々な場面でZoomを使ったオンライン手法が採られているようです。自分自身、少なからずZoomを使った会議に参加することがありますが、人と人を繋ぐその「糸」は決して「回線」という糸ではなく、直接的な言葉の糸だと思つづく感じます。言葉によるコミュニケーション(Communication)が、人と人を繋げ(Connect)、その関係が続く(Continue)ことで、新たな世界が創造される(Create)、これら4つの「C」を心掛け、新しい年がより良き年になる事を願います。

もちろん他人任せにするのではなく、5つめの「C」として、自分自身が挑戦(Challenge)する姿勢を忘れずにいなくてはなりません。末筆になりますが、皆様のご健康とご多幸を祈念致します。

歳末理事会と納会の記

令和二年十二月十七日(木)に参集予定であったが、神奈川県より新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛要請が出され、急遽中止となる。

理事会は翌十八日(二十一日)まで書面にて開催し、以下審議される。

◎議題

【第四六回涅槃会・記念講演の件】令和三年二月十二日(金)午前十一時より。於港北区小机町二五六 浄土宗泉谷寺。講師は浄土宗総合研究所研究員、浄土宗吉上山光明寺住職 石田一裕上人。演題『「苦しい」を減らす仏の教えくお釈迦様からの贈りもの』。

※コロナ対策の為、一般参拝者なしにて厳修。法要・記念講演ともネット配信(録画)にて対応。

◎賛否の結果賛成118、反対11、未回答13(有効票22)より可決となる。但し情勢に鑑み出来るだけ人数を絞り最小人数にて執り行う事とした。

◎通例の理事会審議事項「春の仏跡参拝旅行の件」、「第48回總會日程の件」、「その他(広報拡充・新事務局紹介)等」に関しては後日改めて予定とした。

◎県慰霊堂奉仕日程

四月五日(月) 港北区
六月七日(月) 金沢区
十月五日(火) 中区
十一月五日(金) 保土ヶ谷・旭区

◎涅槃会担当区予定

令和四年第四七回 金沢区
令和五年第四八回 南・港南区
令和六年第四九回 戸塚区

◎総会議長・副議長担当区

二〇二二年第四八回 戸塚・瀬谷区
二〇二二年第四九回 泉・栄区
二〇二三年第五〇回 鶴見・神奈川区

◎役員選考委員担当区

中区、西区、鶴見区、南・港南区、港北区
(令和三年度・令和四年度分)

◎事務日誌

二〇二〇・二・四 涅槃会中区 於西有寺
二〇二〇・三・一 慰霊堂奉仕通知
二〇二〇・三・十一 常務理事・役員会 於勤行寺
二〇二〇・五・七 常務理事・役員会 於勤行寺
二〇二〇・五・一五(二五) 理事会(書面)
二〇二〇・六・一(十六) 総会(書面)
二〇二〇・六・十六 常務理事・役員会 於勤行寺
二〇二〇・八・三一 常務理事・役員会 於勤行寺
二〇二〇・九・二九 涅槃会打合わせ 於港北区泉谷寺
二〇二〇・十・五 慰霊堂奉仕南・西区
二〇二〇・十一・五 慰霊堂奉仕磯子区
二〇二〇・十一・十八 事務局検討会 於興禅寺
二〇二〇・十一・三十 常務理事・役員会 於勤行寺
二〇二〇・十二・十八(二一) 理事会(書面)
二〇二一・一・十二 弔電打電都筑区長王寺
二〇二一・一・三〇 緊急常務理事会 於大圓寺

編集後記

新型コロナウイルス感染症の大流行により私たちの生活様式は一変した。▼ウイルスという目に見えない恐怖や先行きの分からない不安は、冷静さを奪い、正しくない感情を引き起こす源になる。だからこそ正しい知見のもと、風評被害や差別を起こすことのないように努め、知らず知らずのうちに罹患し、また他の方に感染させてしまうこと

のないように慎ましく行動することが求められるだろう。▼歴史上、感染症の流行は宗教界にも大きな影響をもたらしてきた。八世紀に日本で大流行した天然痘では国の人口の三割が死亡し、奈良の大仏は疫病から救済されることを願う国家事業として造立された。また、節分豆撒き習慣も、疫病退散を願う生まれたとされる。▼近代医学の進展により感染症への対処方法は徐々に確立され、例えば、明治十三年にはコレラ流行に対し、内務省は『虎列刺予防論解』

を發布し、密接な人間関係を避ける、部屋の換気を十分に行う等の基準を示した。仏教各宗派寺院は、この予防論解を印刷し、檀信徒や一般向けに配布し、正しい予防方法の普及に大きく寄与した。▼感染症対策は、私たちがとって決して特別なことではない。過去の感染症との闘いを忘れること無く、日常の準備を怠らないことも大切であろう。一日も早い収束を願う。(編集子)